第81回天皇杯全日本サッカー選手権大会

GRAPHICS THE 81st EMPEROR'S CUP

２００２年ワールドカップイヤーにふさわしい熱戦が繰り広げられた第８１回天皇杯。　特に決勝戦の熱い戦いには４万７千人を超える大観衆が酔いしれた。　一発勝負のトーナメント戦で繰り広げられた戦いの数々を３回戦から振り返る。

Contents

３回戦(2001.12.9)
セレッソ大阪　×
大分トリニータ

４回戦(2001.12.16)
ヴィッセル神戸　×
浦和レッドダイヤモンズ

準々決勝(2001.12.24)
セレッソ大阪　×
鹿島アントラーズ

準決勝(2001.12.29)
川崎フロンターレ×
清水エスパルス

決　勝(2002.1.1)
清水エスパルス　×
セレッソ大阪

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved

3 回 戦 １２月９日（日） **長居第2競技場**

セレッソ大阪×大分トリニータ

日韓代表コンビの森島、ユン・ジョンファンで変幻自在の攻撃を見せれば大分は防戦一方。

この対戦は来シーズンからＪ２でライバル関係となる２チームの戦い。今シーズンの成績から見てもそれほど実力差があるとは考えにくく大分が勝ち上がる可能性も十分ある。セレッソ大阪は森島・ユン・ジョンファンの日韓代表コンビが元気に出場。大物ルーキー大久保はフォワードで登場し、攻めるほうは心配ない。しかし、ボランチの田坂が欠場し、ただでさえ不安の多い守備陣に、より一層不安がのしかかる。大分トリニータはわかりやすい攻撃スタイル。カウンター狙いでボールを奪ったら長身ＦＷ船越にフィード。ポストプレーでゴール前のチャンスを作る。試合を通してセレッソのペースにも見えるが、決定的なチャンスでは大分の方に分がある。先制したのは大分。前半１６分にＤＦ池端がロングシュートを決めた。その後セレッソが前半２６分に室井、後半３３分に森島で２点を奪い逆転。それまで大分は何度となく大きなチャンスがあったが、決定力に欠け自らチャンスを逃していた。大分の敗色濃厚なムードだったがロスタイム終了寸前に吉田が２点目を決め執念で延長戦へと持ち込んだ。その後は一進一退の展開。大分は何度も決定的なチャンスを迎えたが結局得点を奪えず、延長後半２分にユン・ジョンファンが左サイドからドリブルでゴール前に切り込みそのままシュート。これがＶゴールとなりセレッソ大阪の４回戦進出が決まった。

次の対戦は新装の豊田スタジアムで名古屋グランパスと・・・。と思ったら意外や意外。瑞穂陸上競技場で行われた名古屋×佐川急便ＳＣとの対戦で、なんと４対０で佐川急便ＳＣが勝っていた。その他の試合でも柏、横浜、ＦＣ東京、福岡、

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved

3 回戦の結果

12 月 9 日（日）

東京ヴェルディ１９６９	2-0	東海大学
ＦＣ東京	0-1	横浜ＦＣ
コンサドーレ札幌	2-3v	川崎フロンターレ
ガンバ大阪	5-0	水戸ホーリーホック
アビスパ福岡	2-3v	アルビレックス新潟
サンフレッチェ広島	1-0	ベガルタ仙台
清水エスパルス	2-0	本田技研
名古屋グランパスエイト	0-4	佐川急便ＳＣ
セレッソ大阪	v3-2	大分トリニータ
柏レイソル	1-2	サガン鳥栖
浦和レッズ	2-0	ヴァンフォーレ甲府
ヴェッセル神戸	1-0	モンテディオ山形
横浜Ｆ・マリノス	0-1	京都パープルサンガ
ジェフユナイテッド市原	5-0	大塚製薬

12 月 12 日（水）

ジュビロ磐田	v3-2	駒澤大学
鹿島アントラーズ	6-0	奈良産業大学

札幌の計６チームのＪ１チームが敗れるという大波乱。４回戦はＪ１が10チーム。Ｊ２が５チーム。ＪＦＬが１チーム。残念ながら３チーム残っていた大学勢はすべて姿を消した。なかでも大学Ｎｏ．１の駒沢大学はチャンピオンシップ出場のジュビロ磐田に善戦。延長の後半まで２対２で粘ったが、最後に痛恨のＰＫを取られてＶゴール負けを喫した。

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved

4回戦 12月16日（日） 西京極競技場

ヴィッセル神戸×浦和レッドダイヤモンズ

ＭＦ阿部の２得点含め４得点を奪った浦和。一方、神戸は、カズ・望月を起点に攻めるものの、後半には見方のレッドカードもあって見せ場も少ないまま。得点は１点のみだった。

Ｊ１の降格争いに片足を突っ込んでいた両チームの対戦。神戸は、三浦カズ・望月・岡野と元代表クラスの人気選手を揃えているが、なかなか勝ちきれない試合がつづく。一方で、浦和は頼みの小野伸二が２ndステージ以降に抜けてからは、どうにも調子があがらない。波に乗れない両チームなだけに果たしていくつ得点シーンがあるのか少々不安な気持ちで試合を見ることとなった。

試合開始当初は、神戸の方が優勢に試合をすすめる。カズ・望月を起点に前線にボールを運ぶ。浦和はカウンター狙い。ボールを奪った後トゥットのスピードを武器に右サイドを中心に攻めあがる。神戸ペースで進んでいた試合だったが、え

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved

てして得点するのは逆のチーム。前半15分に浦和ＭＦ阿部が右サイドからのセンタリングをダイレクトにシュートを放って先制点を得た。その後23分にも浦和が追加点をあげて一挙に浦和ペースとなる。神戸も前半29分から岡野を投入し反撃を試みるが得点にはなかなかならずそのまま前半終了。後半になって神戸にはあせりが出るばかり。攻めても、逆に切れのいいレッズの逆襲を浴びてしまう。後半４分にはＭＦ佐伯が一発レッドで退場。神戸は10人となりますます劣勢。それでも2点ビハインドなら攻めるしかなくバックス陣は苦しくなり、神戸ＤＦの要シジクレイをもってしても持ちこたえられない。後半８分には右サイドからのセンタリングにトゥウットがあわせて3点目をとる。これで勝負あり。トゥットがシュートのときキーパーの前で足を上げていたので神戸の選手は猛烈に抗議したが、もちろん聞きいれられるはずもなく、神戸には精神的にもダメージが大きい得点となった。後半30分には神戸が1点を返したものの時すでに遅し。終了間際にさらに1点を加えた浦和が４対１の大勝で準々決勝進出を決めた。

浦和の次の対戦は市原。昨年までとはがらりと変わり１ｓｔステージ、２ｎｄステージとも優勝圏内にいた強豪チームのひとつとなった相手だけに苦しい展開が予想される。しかし市原に勝てば埼玉スタジアムでの準決勝が待っている。会場の仙台にも多くのレッズサポーターが詰め掛けるに違いないだけになんとしても踏ん張りたいところ。

さて４回戦も3回戦に引き続き大きな波乱があった。駒沢大学に大苦戦の末、Ｖゴール勝ちしたジュビロ磐田が東京ベルディに1対3で敗れた。一方、磐田とチャンピオンシップで戦った鹿島は順風満帆で勝ち進んでいる。ベテラン勢に疲れが残り精彩を欠く中、本山、小笠原ら若手がチームをリードしており選手層の厚さを感じる。国立での決勝は昨年と同じカード鹿島×清水になる可能性が大きくなってきた。その他の結果は左記のとおり。

12月16日（日）4回戦結果

ジュビロ磐田	1-3	東京ヴェルディ１９６９
横浜ＦＣ	1-3	川崎フロンターレ
ガンバ大阪	1-0	アルビレックス新潟
サンフレッチェ広島	0-4	清水エスパルス
佐川急便ＳＣ	0-2	セレッソ大阪
鹿島アントラーズ	6-0	サガン鳥栖
浦和レッズ	4-1	ヴィッセル神戸
京都パープルサンガ	0-4	ジェフユナイテッド市原

12月24日（月・祝日）

準々決勝13:00～

東京ヴェルディ１９６９	対	川崎フロンターレ
ガンバ大阪	対	清水エスパルス
浦和レッズ	対	ジェフユナイテッド市原

15:00～

セレッソ大阪	対	鹿島アントラーズ

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved

準々決勝 １２月２４日（日） 大阪市**長居スタジアム**

セレッソ大阪×鹿島アントラーズ

今シーズンのＪ１で、チャンピオンと最下位というなんとも皮肉な対決となった。鹿島は、３回戦で奈良産業大学、４回戦ではサガン鳥栖にそれぞれ大勝し、多くのＪ１チームが番狂わせで敗退しているなか、順調に勝ち進んでいる。なかでもチャンピオンシップ以降ビスマルクが欠場するなか、本山や小笠原がチームを引っ張って他チームと選手層の厚さで抜けた存在となっている。

一方のセレッソ大阪は大分トリニータに延長で勝利の後、名古屋を破った佐川急便（ＪＦＬ）に２対０と危なげなく勝ち進んだ。セレッソでもっとも活躍しているのはユン・ジョンファン（韓国代表）。大分戦では勝負を決めるＶゴールを決め、佐川急便戦でも２ゴールと絶好調。ボールを持ってゴール前に来ると全く危険な存在となっている。もちろん森島も元気に走り回っている。しかし、このチームの課題はなんといっても守備。プレスのかからない中盤から逆サイドに振られると必ず決定的な場面を作られてしまう。果たしてセレッソディフェンス陣が柳沢・鈴木の代表ツートップや小笠原・本山が繰り出す２列目からの分厚い攻撃に絶えることができるのか。ややもすると前半で試合が終わってしまう危険性もある。

セットプレーから鈴木がチョンと足に当てて同点ゴールを奪った。しかしわずか１分後に得点を許し、終始苦しい試合をしいられた。。

しかし、試合はまったく意外な展開だった。前半４分、先制したのはセレッソ大阪。ワントップの大柴からのパスを受け右サイドでフリーでボールを持ったＭＦ原のカーブのかかったシュートはゴールネットを揺らした。予想外のセレッソの先制点に真後ろにいた鹿島サポーターが凍り付いた後、一瞬の間を置いてセレッソサポーターの歓声が沸き上がった。

その後もセレッソは森島、ユン、大柴を中心に次々とゴール前であわやという場面を作る。鹿島もいつもの迫力ある攻めを見せていたが、今日のセレッソの守備は一味違っていた。中盤からしっかりとプレスがかかっており、ＤＦ陣は１対１でもしつこく絡んでほとんどフリーでプレーをさせなかった。

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved

前半20分左サイドの絶好の位置でセットプレーを得た鹿島は、小笠原から鈴木へ。鈴木はゴール前で少し触っただけでボールはゴールへ。同点となる。誰もがこうなれば鹿島ペースと思ったに違いないが、それも一瞬。1分後には、森島とユン・ジョンファンがゴール前にいた。森島がボールをもって鹿島DFにつめられるところ、ヒールでユンへ絶妙のパス。ユンはそれをゴールへ蹴り込み、セレッソは再び1点リードした。その後一進一退の攻防が続く中、32分に鹿島は柳沢のゴールで2対2の同点。なんとも期待に反する見ごたえのある試合となった。後半も両チームに決定的なチャンスが訪れる中どちらが次の1点をとるのか緊張感が張り詰める。

勝敗の行方は雪崩のように片方へ傾いた。後半17分にセレッソMF原がゴールをきめた。その4分後には、ユンがペナルティエリア内でボールをキープしようとするなか鹿島DF秋田が腕を絡めてしまいPK。これをユンがきっちり決めて2点差。いつものセレッソならこの2点差もセーフティーではないが今日は集中力も充実。鹿島は平瀬、長谷川を投入して反撃を試みたがゴールは奪えず。このまま逃げ切り大番狂わせとなった。

他会場の結果

東京ベルディー　0－3　川崎フロンターレ
ガンバ大阪　0－2　清水エスパルス
浦和レッズ　2－1　ジェフ市原

順当と言えるのは清水だけ。他の試合は全て今シーズンのリーグで下位のチームが上位を食ったことになる。はたして国立のピッチに立つのはどのチームになるのか。29日、新装の2スタジアムで行われる試合で決まる。

12月29日（土）
13：00～
埼玉スタジアム
浦和レッドダイヤモンズ vs セレッソ大阪

15：00～
神戸ウイングスタジアム
清水エスパルス vs 川崎フロンターレ

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved

準決勝 １２月２９日（土） 神戸**ウイングスタジアム**

川崎フロンターレ×清水エスパルス

新装の神戸ウイングスタジアム。カクテル光線に照らされるとますます綺麗になる。ワールドカップでは決勝トーナメントを含めた３試合が行われる。

15時から開始予定のこの試合。すでにセレッソ大阪が浦和レッズを1対0でやぶって決勝進出を決定していた。そして、これからの試合で元日決戦のカードが決まる。準決勝は2試合ともワールドカップに向けて新しく建設されたスタジアムで開催される。ここ神戸ウイングスタジアムもピカピカのニュースタジアム。しかも関西では唯一の大型フットボール専用屋根付きスタジアム。プレイする選手を間近に見ることができ迫力十分にゲームを満喫できる。スタジアムへのアクセスも、これまで神戸で多く使用されていたユニバ記念スタジアムよりも近くて便利。ラグビーでも有力チームの多い神戸にあって多くの利用が期待される。

試合の方は、序盤から清水の一方的展開。川崎は三都主アレサンドロやバロンなどがスピードを生かして突っ込んでくるのを、反則で止めるのがやっとの状態。このままでは、前半で試合が終わってしまうのではと思うほど。こうなれば川崎の攻撃はカウンター狙い意外に選択の余地はなく、ほとんどの時間帯を守備についやすことになる。しかし、そんな優勢な展開にも清水の攻撃は迫力に欠ける。チャンスは幾度となく訪れるがなんとなく迫ってくるものが感じられない。先日の鹿島の攻撃と比べるとはるかに迫力不足を感じた。

なかなか先制点を奪えない清水は、26分にバロンからのパスを澤登がシュートを決めてやっと先制。その後も同様の展開だったが追加点は無く結局1対0のまま前半を終了。

後半も清水が一方的に攻める展開。この大会、得点を許していない清水。守備が安定しているだけにこの1点で逃げ切ることができる。しかし、あまりに川崎の攻撃がつながらないのでさすがの清水にも油断ができたのだろう。川崎がカウンターからゴール前にボールを運ぶ、清水ＤＦ２人の間を抜くセンタリングがゴール前にあがる。これを伊藤彰がヘッドでゴール。川崎が千載一遇のチャンスをものにして1対1の同点にもちこんだ。こうなれば勝負の行方がわからなくなるのがサッカーというスポー

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved

ツ。川崎も勢いづいて積極的にサイド攻撃を仕掛けるようになり、俄然　試合が大きく展開するようになる。しかし、カウンター狙いだった川崎が攻めてしまうとどうしてもDFに穴ができてしまう。後半30分、今度は澤登からのパスをバロンが決めて勝ち越し。この1点で清水が決勝進出を決めた。

これで、決勝は清水対セレッソ大阪となる。みどころはやはり、日韓代表コンビのユン・ジョンファンと森島で変幻自在の攻めを見せるセレッソと清水の守備陣。代表で活躍する森岡・戸田などが守りを固めるだけに、彼らのディフェンスを破るのは容易ではない。果たして元日に天皇杯を高く掲げるのはどちらのチームか。清水が堅い試合運びを展開するのか、セレッソ大阪がノーガードの殴り合いに持ち込むのか。客入りは少し心配ではあるが、内容としては見所いっぱいのカードとなりそうだ。

清水エスパルス
ゼムノビッチ監督

攻撃型のセレッソ大阪
相手にどのような試合
運びを見せるのか

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved

決　勝　１月１日（火・祝）　**東京・国立競技場**

清水エスパルス×セレッソ大阪

客入りの心配は全く必要なかった。13時の時点でほぼ満員の状態。やはり元日決戦は人の集まりが違う。観衆は四万七千人を超えた。天気もあまり良くないとの予報だったが快晴。まさにサッカー日和となった。

清水、セレッソとも天皇杯は初優勝となる。清水はこれまでリーグ、カップ戦とも2位があまりにも多く、シルバーコレクターとのありがたくない称号をもらっている。そして2年連続の決勝進出。昨年は鹿島相手に苦杯をなめただけに、今年はなんとしてもタイトルをものにしたい。一方のセレッソはリーグ戦では最下位でＪ2降格が決まっている。しかし、この天皇杯ではまったく別のチーム。中盤でのプレスが良く効いて、昨年のＪリーグ１ｓｔステージで優勝争いをした頃を彷彿とさせる戦いをしている。ユン・ジョンファン、森島、田坂など主力選手は元気で攻撃にも厚みがある。今大会1失点しか許していない清水の堅いディフェンスを破る可能性も十分ある。

いよいよキックオフ。立ち上がりに主導権を握ったのはセレッソ。いつものユン・森島のコンビネーションから大柴のスピードを生かした攻撃が清水ゴールを襲う。決定的チャンスが何度となく訪れる。このままいけばセレッソが鹿島戦と同様に先制パンチをおみまいするのかと思ったが、清水が初めてのビッグチャンスをしっかりとものにした。ゴール前でボールをキープした三都主アレサンドロがセレッソＤＦとＧＫの意表をつくルーブシュート。ふわりと浮いたボールはゴールの枠へと吸い込まれた。堅守の清水が先制したことで一挙に形勢は清水へと傾く。清水の中盤のプレスが効き始めセレッソのパスはつながらなくなる。ボールはほとんど清水が支配することになり、さらに得点を追加してもおかしくない展開の中、バロンのシュート

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved

後半３０分すぎに真中を投入して以降、セレッソは怒涛の攻撃を見せる。　岡山のポストプレー。大久保のドリブル。各選手が持ち味を出し３４分に森島が得点。４４分には大久保がＰＫを取り、これをユンが決めてついに２－２の同点となった。

がバーに跳ね返される不運もあって結局1対0で前半を終了する。

後半は一進一退の攻防。後半開始当初は清水のペース。それを見てセレッソ西村監督が動く。10分すぎ大柴・杉本に変えて大久保・岡山を投入する。ここからセレッソの反撃開始。クロスボールのすべてを空中戦に強い岡山に集め、チャンスの起点となる。大久保が得意のドリブルでゴール前までキープしてチャンスメイク。そろそろセレッソが得点しそうな雰囲気がスタジアムに充満していた。しかし、またしても得点するのは清水。ユンのファウルでフリーキックを得た清水は、澤登から森岡へ絶妙のクロス。森岡がきっちりとヘッドで叩き込み、2対0。これで試合の行方はほぼ決したといってもいい状況だが、2対0というスコアは魔のスコアとも言われる。そう、ここからが本当の勝負となったのである。

後半30分を超えてチャンスを多く作っても得点できないセレッソは、最後の切り札　真中を投入。超攻撃的布陣で2点を取りにいく。その直後後半34分森島の前に絶好のシュートチャンス。これをゴールへ突き刺し2対1とする。この後は完全にセレッソ

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved

切る。その後セレッソが反撃。しかし迫力ある攻めとは裏腹に後半からの超攻撃布陣で守備のほうは手薄になっていた。カウンターから清水・三都主が左サイドに飛び出してボールを受けほぼフリーでセンタリング。これをバロンがシュート。いったんはGK下川が跳ね返すが再度ゴールへ押し込みVゴール。清水は、過去2度（98年、00年）挑戦して獲得できなかった悲願の天皇杯をついに手にした。

まさに天皇杯決勝にふさわしい好ゲーム。ワールドカップイヤーの最初の日にすばらしい試合を目の前で見ることができたことで、なんともいえない充実感を感じることができた。清水イレブンが天皇杯をかかげ、サポーターからあがる喚起の雄たけびを聞きながら、今年の6月にはさらなる興奮がやってくることに思いを馳せながら夕日に照らされる国立競技場を後にした。

■

ペース。ときおり守備の手薄なセレッソゴールを途中出場の横山が狙うがペースを変えるまではならない。そして44分セレッソサポーターの全員が両手を突き上げる。ゴールエリアでボールに絡む大久保がキーパーに引っかけられる。これでPKを獲った。もっともプレッシャーのかかるPKとなったが、ユンがこれを冷静に決めてゲームはついに振り出しにもどる。ロスタイムの3分間もセレッソが勢いに乗って攻めに攻めたが、試合終了のホイッスルがなり、天皇杯決勝は2年連続延長戦に突入する。

延長戦にはいって以降はまず清水ペース。清水のコーナーキックが何度も続くがセレッソはなんとか守り

あとがき

セレッソ大阪が追いつき、積極的な攻めを見せるのを見ながら、昨年のこの大会で涙を飲んだ清水を思い出した。あの時は、追いついた清水がいまにも逆転しそうな雰囲気だったが、鹿島に延長で足元をすくわれた。昨年くやしい思いをした分、今回は守備への意識を忘れずバランスを保つ冷静さを持てた。それが最大の勝因だったように思う。さてセレッソ大阪は来シーズンどのような戦いを見せてくれるのか。森島やユン・ジョンファンはW杯で代表に取られる。代表が合宿の期間でもJ2の試合は容赦なく行われるだろう。この大会で杉本や原など若手の成長が見られたのは心強いが、J1昇格に向けて決して気の抜けないシーズンになりそうだ。。

Copy right(c)2001-2002: Kazuhide Yano/All right reserved